

湯沢市ゼロカーボンシティ宣言資料

～ 脱炭素を起点とした持続可能なまちづくり ～



1 目的

市民・事業者・行政が一体となって、**2050年までに市内の二酸化炭素排出量を実質ゼロにする**「脱炭素化」を図るとともに、**本市の特色**を生かしながら持続可能なまちづくりを進めるため、ゼロカーボンシティ宣言を行う。

- POINT -

単に「減らす・やめる」ではなく、新たな価値を“創り”市の持続性を“高める”ことが主眼。取組を進めることで、「環境」だけでなく、関連する「経済」や「社会」の課題解決につなげる。

同時解決

◆環境の課題

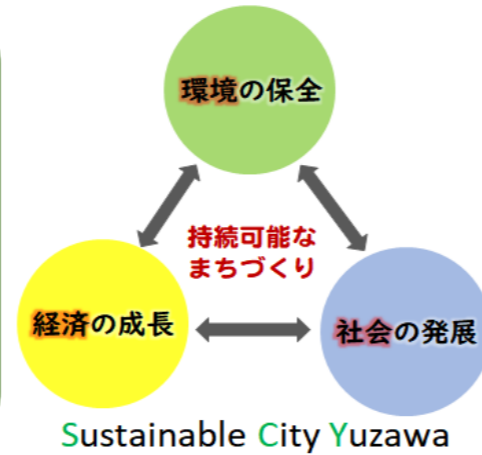
CO₂の排出削減、エネルギー問題、森林・農地の荒廃 等

◆経済の課題

地域経済の衰退、地産地消、就労機会の確保、人材育成 等

◆社会の課題

人口減少、地域活性化、コミュニティの希薄化、地域防災 等



4 ゼロカーボン達成に向けた取組（短期）

① オール湯沢のエコ活動

市民や企業が総ぐるみでエコ活動（ごみの減量・節電・食品ロス削減等）に取り組むとともに、活動を促進するための支援策を展開



② セミナーの開催

各主体に応じて開催
●子ども(学校ほか)
●市民、地域団体
●事業者、商工団体
●市職員 等



③ EV車の普及

環境に配慮した自動車を普及させるため、充電スポットの整備や公用車にEVを導入



④ 市の先行事業

実行計画(事務事業編)の実施

- 公共施設再編・効率化
- LED照明への切替え
- 再エネ電力の導入促進
- 新規施設等のZEB化



⑤ 長期方針の策定

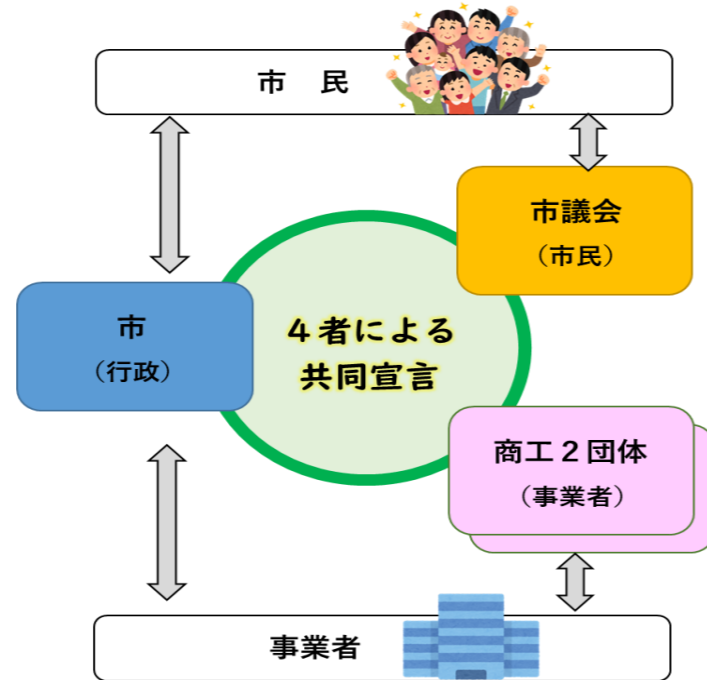
目標達成に向けた基本的な方向性や取組の道筋を描く「仮称・ゆざわゼロカーボンビジョン2050」を策定



2 関係機関(団体)との共同宣言

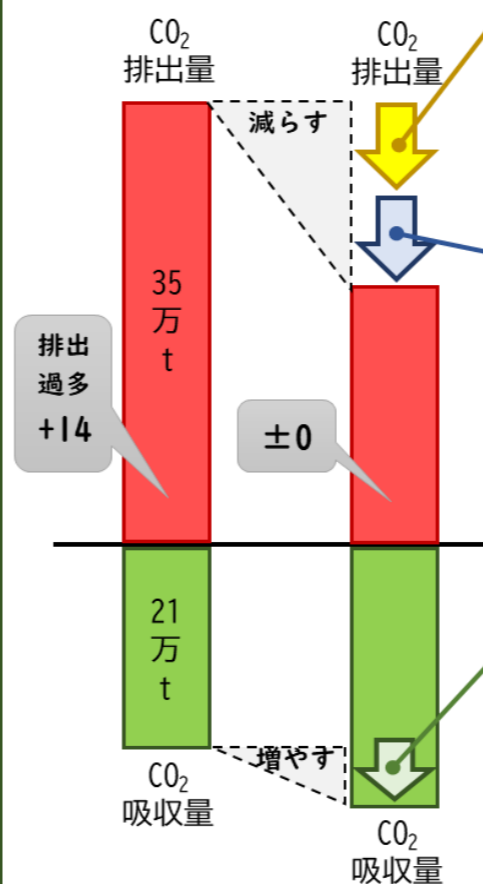
脱炭素化という大きな課題に正面から向き合い、持続的に発展し続けるまちづくりを進めるためには、各主体が一枚岩となって、「共創」をキーワードに取り組みを進める必要がある。

そのため、湯沢市(行政)だけの単独宣言ではなく、市民の代表である湯沢市議会、事業者で構成する湯沢商工会議所及びゆざわ小町商工会と4者による共同宣言を行い、種々の活動を展開していく。



5 ゼロカーボン達成に向けた取組（長期イメージ）

現状値(2018) → ゼロカーボン(2050)



1 再エネの地産地消、省エネの促進

- 電力の地産地消(地熱から生まれた電気を市内全域に)
- 地熱エネルギー等の産業利用促進(効率化+高付加価値化)
- 住宅・建築物のZEH/ZEB化(エネルギー消費実質ゼロ)
- 自立分散型エネルギー社会の構築(エネルギーの自給自足) 等



2 脱炭素型のまちづくり

- 公共交通機関、自家用車、業務用車の電動化
- 地熱によるグリーン水素の製造と流通促進
- 新たなビジネス創出による経済の持続的成長(GX)
- コンパクトなまちづくりの推進(コンパクト+ネットワーク) 等



3 豊かな森づくり

- 多様で健全な森林の整備・保全(皆伐・再造林など)
- 担い手の育成・支援、森林管理体制の強化、木育
- 木材の安定供給体制の構築、地域産材の利用促進 等



ゼロカーボン(収支ゼロ)を経て、カーボンマイナス(収支マイナス)に取組深化!

3 これまでの主な取組

